

令和3年度第1回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和3年7月5日（月）午後1時

場所：犬山市役所 5階 503会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 奥村康祐 委員 田中秀佳 委員 小倉志保
委員 堀 美鈴 委員 渡邊智治 委員 木澤和子

アドバイザー 県立犬山高等学校長 石田 亘
県立犬山南高等学校長 森也寸司

事務局 【経営部】
鈴木経営部長
企画広報課 井出企画広報課長
高橋課長補佐
小枝統括主査

【教育部】
中村教育部長
長瀬子ども・子育て監

記録者 企画広報課 小枝統括主査

傍聴者 0名

◆次第

- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議題
 - ・城東小学校・中学校について
 - ・不登校について
 - 4 自由討議
 - 5 その他
 - 6 閉会
-

◆会議要旨

議題(1)城東小学校・中学校について

【主な意見】

- ・城東中学校は、複合的に学区が重なっているため、学区のあり方を考えなくてはならない。時間に余裕があるわけではない。今からきちんと交通整理していく必要がある。
- ・犬山北小学校から中学校に進学する際の扱いをどうしていくのか。
- ・今後の子どもたちの数からすれば、今井小学校のあり方を含めてどうしていくのか議論として避けられない。
- ・栗栖小学校も今井小学校も池野小学校も、小規模校だから、効率が悪いからどこかと統合していこうという考えは違う。小規模校だからできる教育のスタイルを考えて、選択肢の一つとして確立するということが大前提。
- ・一時的ではなく、10年先の子どもたちの数を想定しながら、考えていかないといけない。全体を見て考えていかないと、うまくいかない部分が出てくる。
- ・議論した結果、現状のままかもしれないが、議論をして、この時点での結論出すことが重要。
- ・学区を変えることが前提ではなく、これから先の児童数・生徒数を見ながら、正常な児童・生徒数の数を維持していくためにはどうしたらいいかという視点で見直すことが必要
- ・一貫校にすると、今井や他の学区の問題が出てくる。そういうところが一貫校にするのか、併設校にするのかというところの分かれ目になる。
- ・学校選択制も考えていけると良い。
- ・犬山市内の小中学校はどこの学校でも同じ教育を受けられるので学校選択にする必要はない、ということで、ここまでは来ている。学校選択制をやった方が良いのではないかとということであれば、一度教育委員会の中で議論。ある学校が極端に増えて、ある学校は極端に少なくなってしまうと、現有の校舎では対応しきれない状況も出てきてしまうので、無責任に学校選択性は難しい。
- ・教育に関心がある人と、子どもが学校に行き、勉強が出来て、元気に育ってくれば良いという親もいる。最初に親の意見を聞くことがものすごく大事。その時間を長くとらないといけない。
- ・学校の方針一つで、まちが変わるということを感じる。
- ・今、住んでいる人、これから先、子どもたちが学校に行く若い親。まだ子どもがいない人たち、ずっと住んでいて子どもたちがいる人たちの意見、全部聞いてみたい。
- ・子どもたちが減っていくことを考えたら、城東と同じようなことがよその小中学校でも起きていくこともあると思う。城東が犬山モデルみたいなものとして、考えていかないといけないことがあると思う。
- ・学区を整えて、一貫校を作ることができたら、新しい教育方法を考えられる。そんな試みをしてみて、犬山らしい教育が、新しいものが生まれてくる可能性もある。
- ・距離の問題はあると思っている。4キロ、5キロを子どもたちが歩くことが、親にとって学区を変えるときの一つの考えになるのではないかと。交通手段とか、通学の安心安全、というものも学区と同じように考えられると良い。
- ・犬山市全域でどういうあり方にしていくのかを考えないといけない。どれだけの距離のところはこういう対応をするとか。

議題(2) 不登校について

【主な意見】

- ・「無理に学校に行かなくても、その子なりの居場所があって、学校で教育を受けるのと同等の教育を保証できるのであれば、あえて学校に来なくても良いのではないか。
- ・子どもたちに選択肢が増えれば良い。
- ・不登校の子と学校とのつながりが学校へ来る第一歩。不登校の子に対して授業を提供してあげられること、学校とつながることが非常に良い。
- ・通信手段（ルーター、Wi-Fi等）を提供すると、さらに過ごしやすくなるのではないか。
- ・他市では不登校になる前の段階、またはその中に「いじめ」が含まれていることが多い。家庭に入ってみると、「これは学校に行けていない」という家庭も多く存在する。不登校に取り組むことも大事だが、その奥にある子どもの思い、家庭の状況を聞く場所、人が充実してくると、さらに減るのではないか。
- ・どうしても年齢が来た時に「受験」があるので、そこに不利にならないような対応ができないか。
- ・「不登校でもきちっとした進路があるよ」ということを明確に示すことが大事。
- ・どんな学校が求められているか、子どもが求めているか、はそれぞれ違う。いろんなカテゴリーがあるので、選択肢がたくさん持てると良い。
- ・小規模校を希望する子がいれば、人数の多い小学校から小規模校への移動を認めていくことも、城東の学校づくりのところで一緒に考えていけたら良い。
- ・目先のことだけではなくて、20年後、30年後にはこんな仕事をして、こんなふうに生活していきたい、そのためには何をしたらいい、というような働きかけができる教育であると良い。
- ・小学校で言うと0.95%、中学校で言えば4.57%の中でどれぐらいが行政として対応が必要なケースなのか。きちんと教育を受ける権利が保証されていると言える状態なのか、を教育委員会として知るべき。
- ・どう対応していくかという分析、不登校のプロジェクトを立ち上げるべき。
- ・不登校の問題で一番注意しないといけないことは、関係的貧困。人間関係がきちんと結ばれているかどうか。
- ・関係的貧困でいうと福祉的対応が大事になってくるので、学校の先生だけでは追いつかない。行政の他の機関とも連携をとっていかないといけない。
- ・不登校も質と量の問題があって、質の部分は個々に不登校になっている原因が違うので、本当に個々に対応を重ねていくのだと思う。量＝数を問題にすると、学校現場はどうしても数を減らそうとして学校に来させようとするから、あまり不登校の数のことを言ってもいけないのではないか。
- ・フレキシブルにこれから学校というものを考えていくとすれば、来ない子をどうやってフォローアップしていくのか考えていく必要がある。
- ・教育委員で議論して、ここにこういう人材が必要じゃないかと、言っていただきたい。
- ・学校のあり方は、ゼロベースで議論をするいい時期ではないか。

◆会議録

司会 (井出企画広報課長)	<p>皆さん、こんにちは。田中委員は遅れていらっしゃるということでした。定刻前ではありますが、ただ今より、令和3年度第1回犬山市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>開会に合わせて、1点お願いいたします。</p> <p>本日の会議は、犬山市総合教育会議運営要綱第4条に基づき、公開としています。</p> <p>また、インターネット映像配信サービス「YouTube」で中継を行っていますことを、ご了承ください。</p> <p>それでは、山田市長からごあいさつを申し上げます。</p>
山田市長	改めまして、こんにちは。
出席者	こんにちは。
山田市長	<p>犬山市総合教育会議ですが、関係の皆さんには、いつもありがとうございます。</p> <p>先日八街市だったかな、子どもが下校途中に事故にあって亡くなるということがあって、すぐ担当には通学路の総点検の指示したところですが、通学路の安全対策は、計画をしっかり作って、予算も5倍に増やしていますから、危険個所の整備は着実に進めているところです。「通学路の安全対策も、物理的なことはもちろんですが、いろんな技術的なことだったり、対策そのものを他市町はいろいろなことをやっていますので、そういったものを参考にして検討してください」と。あるいは今までも通学路に関しては検討され尽くしてきていると思うのですが、改めて、あのような事故を踏まえて、通学路をどのようにルート選定していくのか。いろいろそのようなことを検討するようになったのですが、そもそも昼間に酒を飲んで車に乗って帰るというのは、通学路の安全対策うんぬんというよりも、人としてそれはどうなのかと。通学路はしっかりやっていくのだけれど、大人としての、人としてのありようというものを、これは絶対見失ってはいけないところではないのかと。今、コロナで我々いろいろなことを注意喚起しています。注意喚起する政治家が銀座で酒を飲んでいたとか、そういう話はやはり示しがつかない。ですので、物理的な問題を改善していくこともさることながら、大人が一人一人の責任というものを認識して、人としてあるべき姿をしっかり考えていくことが重要ではないかなと。まさにそれを一緒に学びあって作り上げていくことが教育の一つになるかと思えます。それは学校教育だけではなくて、社会教育、保育もみんな共通するものだと思いますので、まさに教育委員会の所管事項を通じて健全な人を作っていく、そういう議論を、これからも総合教育会議はもちろんですが、教育委員会の場でもやっていただければ良いかなと思います。</p> <p>今日の教育会議も皆さんといろいろ議論をしていけたらと思いますので、よろしくごお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>では、よろしくお祈りします。</p>
司会 (井出企画広報課長)	続きますして、滝教育長、ごあいさつをお願いします。
滝教育長	改めまして、皆様こんにちは。
出席者	こんにちは。
滝教育長	<p>今、市長からも話がありましたけれども、八街市の事故ですけれど、朝、「行ってらっしゃい」と見送って、帰りにあんな姿で帰って来たら、親として何と言ったらいいのかな。私たちは大切な命を、学校現場を含めて預かっていますけれども、少なくとも健康な状況で家庭に返す。これは最低限ではないかなと思っています。</p> <p>なかなか通学路の関係でも、毎年点検はしていますけれども、酒を飲んでトラック</p>

	<p>を運転して電柱にぶつかって子どもたちの列に突っ込むなんていうことは、普通は考えられないことです。今日も午前中に校長会がありまして、「予期せぬ事態を予期せよ」と。非常に難しいことです。「予期せぬ事態を予期する」つまり何かあるか分からないことを想定して、通学路、子どもたちの安全に対してこれまで以上に配慮をして通学路点検をするようお願いをしたところでございます。</p> <p>二つ目ですけれど、学校現場は子どもたちと接する機会が多いものですから、保育士あるいは教職員のワクチン接種につきまして、市長からも配慮いただいて、市内在住の保育士、教職員については優先して接種をしていただけるような環境を作っていました。学校現場からは大変喜びと言いますか、感謝の声が届いていることをお伝えしたいと思っておりますし、ご配慮いただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>それから一昨日でしょうか、静岡の熱海市で大雨によって土石流が流れ込んで、家屋、車が流されました。最初は147という数字だったのですが、30数名消息が分かって110数名ということだそうですけれど、あの状況を見ると、それこそ10年前の3.11を思い出してしまいました。おそらく今回の災害で亡くなったご遺族の方々は、3.11以上に大きな、衝撃的な出来事ではなかったのかなと思います。こうした災害があると、犠牲者が出ると、行政の対応がよく問われます。「避難指示を出したかどうか」、「何時に出したのか」、「遅くないのか」とか言われるわけです。やはり、子どもとか高齢者などの弱者について行政が守っていくことが必要なのですけれど、基本的に自分の命は自分で守るという習慣を日ごろから身に付けさせていく必要があるのかなと思っているところです。</p> <p>4点目のGIGAスクール構想ですけれど、4月から一人1台、膨大な市費を投入していただいて、整備することができました。前期の学校訪問、ずっと学校を周りますと、どの学校も端末をはじめ、デジタル教科書、電子黒板をフルに活用して授業を行っている様子を見ることができました。夏休みは端末を家に持ち帰る機会を持つわけですけれど、「家庭に持ち帰ってからの活用も可能性を探るように」と学校に指示を出させていただきました。</p> <p>本日の総合教育会議でありますけれども、市長と教育委員のみなさんが議論できる貴重な機会でありますので、ぜひ有意義な議論ができることを期待したいと思いますし、本日はご多用の中、犬山高校の石田校長先生、犬山南高校の森校長先生、にもお越しいただいております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>議事に入る前に本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・参考資料1 「令和3年度以降の学校区別児童生徒数の推移表」 ・参考資料2 「不登校児童生徒数の推移」 <p>以上となります。</p> <p>資料はお揃いでしょうか。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p>これ以降は、「犬山市総合教育会議運営要綱」第3条に基づき、山田市長に議事進行をお願いします。</p>
<p>山田市長</p>	<p>それでは、さっそく議題を進めさせていただきます。</p> <p>議題は二つあります。一つずつ議題が終わって、議題に対して意見交換が終わったら、アドバイザーの先生に意見を求めさせていただきます。もし何かご意見があ</p>

	<p>れば、ご指導をいただければと思います。</p> <p>それではまず議題の一つ目ですが、「城東小学校・中学校について」です。ご承知のように、学校の整備は順次進めておりまして、今後の計画も委員の皆さんはご承知いただいていると思いますが、現在、南小学校を整備していて、その次が城東ということになります。城東は立地状況が、小学校と中学校が併設されていますので、全体の空間をこの機会にしっかりレイアウトして、小・中と整備していくという流れになります。そうすると、城東中学校、あちこちの小学校から通っていて、かなり複合的に学区が重なっていますので、学区のあり方というものが、今までも議会でも議論が出ていますけれども、市民の中からもそういった声もありますので、そういった学区のあり方を並行して考えなくてはいけない。学区のあり方を議論するには、住民とのコンセンサスという点で言うと、時間がかかります。行って一年で解決するような簡単な単純な問題ではありません。大論争になって、時にはきつい意見が出る可能性もあります。ただ、しっかりと住民とのコンセンサスを図りながら、議論はしていかななくてはいけない。どういう結論になろうとも、議論は避けられない。ということですので、それを考えていかななくてはいけない。コンセンサスを図るのに時間がかかるので、学校を整備するのは令和6年からなので「まだ先か」という話ではなくて、「学区」の議論を考えていくと、決して時間に余裕があるわけではない。これは教育委員の皆さんが矢面に立って、住民の皆さんと向き合っていかななくてはいけない課題です。教育委員の皆さんというのは、住民の意見を聞いて、教育委員会として意思決定をしていくという役割を担った皆さんですので、住民と向き合わずに議論するということはありません。ですので、いろんな厳しい意見が飛び交う場面、矢面に出ていただくということになります。あまり時間がない中で、どのようにこの問題を整理していくのか、ということは、今からきちんと交通整理していく必要があると思います。</p> <p>後は、これはもう少し先でも良いと思うのですが、小学校と中学校が併設されていますので、学校のレイアウトをしっかり考えていく必要があると思います。まずは、そういったことを少し頭においていただきながら、城東小学校、中学校のあり方、あるいは今後の整備に向けての考え、そういうことについて皆様から意見が何かあれば、これをテーマに今日は協議したいと思っています。何か皆さんからありますでしょうか、この件について。</p> <p>はい。奥村委員</p>
奥村委員	<p>教えていただきたいのですが、先ほどおっしゃっていた「学区」というのは、城東中学校と城東小学校があって、城東中学校は今井小学校と城東小学校はもちろんのこと、北小学校との学区。その北小学校との学区のことを想定されているのか、今井小学校、里山の3小学校のことも入るのか、その辺りを方向性として伺いたいと思います。</p>
山田市長	<p>それはまさに皆様のお考え、議論いただくべきテーマです。ただしポイントはあるかと思います。城東に関して言えば、現在は城東小、今井小、そして北小から、子どもたちが来ていますので、例えば北小の問題で言えば、人数的に言うと半々ぐらいで犬中とに分かれています。今はどうか分かりませんが、以前は、中学校に上がる時は分かれるのではなく、そのまま犬中という話もありました。北小から中学校に進学する際の扱いをどうしていくのが一つのポイントです。</p> <p>それから今井小です。今後の子どもたちの数からすれば、どうしていくのかという問題があるので、小学校そのもののあり方も含めてどうしていくのかはどうしても議論として避けられないポイントかと思います。私の今井小に関しての意見です</p>

	<p>けれど、前から繰り返し言っていますが、栗栖も今井も池野も、小規模校だから、効率が悪いからどこかと統合してこうという考えは違うと思っています。小規模校だからできる教育のスタイルをきちっとみんなで考えて、編み出して、選択肢の一つとして確立するというのが大前提になればいけないと思っています。それを前から言っています。全然、公教育の既存概念にとらわれない選択肢にしてしまう。それくらいの大胆な努力をして、頑張っ頑張っ頑張っ、それでも子どもがいなくなって、どうしても学校が存続できないということになったら、ではどうしようということになると思います。あるいは、「そんな少ない学校で子どもたちを育てるのは学習環境として良くないから、大きいところに入れてくれ」ということが住民の総意であるならば、それは我々の思いだけで押し付けることはできませんので、今井小、あるいは他の小規模校に関しては、まずは学校がきちんと一つの選択肢として、小規模校だからできる、その特徴を明確に打ち出す必要があると思います。それをしない限り、変わらない。もちろんまちづくりの観点で人を増やそうという努力はしています。家を建ちやすくするとか、子育て支援策を強化したりといった努力はしていますけれども、それにも限界がありますので、学校としての魅力を高めることも一つではないかなと。小規模校に関してはそうです。</p> <p>北小に関しては、私自身も、もう少し住民の皆さんの声を聞いていかないといけないなと思っているのですが、「分断されることが悪だ」という先入観は議論するべきだと思います。私の経験を言っ申し訳ないのですが、私の時代は城東中学校は、今、申し上げた3校に加えて、南小学校と東小学校からも城東中に来る子がいました。南小学校は圧倒的少数でした。今井小と同じくらいの人数しか城東中に来ない。そんな中で私は城東中に行きました。完全なアウェイです。ほとんど城東小学校の子たちが主流なので、アウェイの状態にボーンと入ったわけです。今思うと、そういうところに自分が順応できたということは、今の自分を作っている極めて大きな効果をもたらしています。少ないところに放り込まれる環境に適応できない、もちろん今と昔は違うかもしれませんが、今の子どもに課せられる複雑なさまざまな状況というのは昔と全く違いますから、「私のときはこうだった」と言うつもりは決してないのですが、本当に、小学校から中学校に上がるときに、どういう環境が良いのかということは考え方もそれぞれあるので、特に北小に関してはほぼ半々というか、別れ方が小規模校と違う事情があるので、よく皆さんの声を聞いていかないといけないなと思っています。ただしここに書いてある数字上のことを見ると、城東はこれからどんどん激減していきますから、そういう全体の子どものバランスというものも見ざるを得ないところがあるかもしれませんが、そのようなところがポイントではなかろうかと思っています。</p> <p>すみません、少し長くなりました。</p>
奥村委員	ありがとうございます。
滝教育長	<p>6年ほど前、平成27年だったと思いますけれど、東部中学校の生徒数が減ることによって、それまで城東中学校に通っていた前原地区の子どもたちを東部中学校に通わせるという話が出てきました。実はその時に、「単に城東中学校に進学する校区だけではなく、南中、東中、犬中、城中、全部を見直さないといけないのではないか」という話をした覚えがあります。「それをやっていると、1年、2年では議論が済まない」と。当時、私は学校現場におりましたけれど、その時に教育委員会にお話ししたのは、「今やりたいのは何ですか」と聞いたら、「まずは東部中学校の生徒数をどうにか維持することを考えたい」。「だったら手を広げすぎずに、いわゆる城中に進学する前原地区の子たちをどうするかという事に焦点を絞って</p>

	<p>議論しないと、結論はすぐに出ませんよ」と。結果的にそこに絞って議論をして、前原地区の子どもたちは、東小学校から城中に通っていた子どもたちが、東小学校から東中に通うような状況ができたということです。今回、例えば城中に通う北小の子たちを全部犬中に通わせるとすると、今度は城中の数がぐんと減ってしまいます。そうした時に、これは分かりませんが、ひょっとしたら前原を、また城中に戻すということになったら前原の方々は非常に「俺たちを何だと思っている」、「あっちやったりこっちやったり」と、多分おっしゃると思います。ですから、一時的にどうこうではなくて、これから10年先、20年先は子どもたち生まれていないから分からないですけど、10年先でしたら子どもたちの数は読めますので、そのあたりの数を想定しながら、例えば北小学校はだいたい6:4で城中が6、4が犬中に通っています。城小は100%、今井小は100%。そのあたりを考えていかないと、なかなか見通しが立ちにくいかなと思っています。今後どうするかということについては、全体を見て考えていかないと、なかなかうまくいかない部分が出てくるかなということはと思っています。</p>
山田市長	はい。ありがとうございます。他によろしいですか。
堀委員	今、おっしゃっていたことは、目安としてほしい10年ぐらいを見据えて、今から何年間でどのようにするかを定める、ということでしょうか。さっきおっしゃったように、途中で子どもたちがこちらへ行っていたのをこちらへ変える、ということが非常に難しいとすると、今のお話の中で、この1~2年のうちにどうするかを決めるというふうに考えればいいですか。
山田市長	そういうことです。学校を整備していく時期は当然決まっていますので、学校の整備に合わせて、当然、学区のあり方というものは、特に城東の場合は小学校も中学校も併設されているということもあるので、検討せざるを得ないです。それは教育長が言ったように、10年ぐらいのスパンで先をみて、今、判断していくということには当然なるのですけれど、それはどの時点であろうが、課題としてはあるものですから、この学校の整備をきっかけに議論をすると。そして、議論した結果、どういう結論を導き出していくというのは、それは現状のままかもしれないかもしれません。現状のままであろうが、そうでなかろうが、議論をすると。議論をして、この時点での結論を導き出すということが重要ではないかなと思います。というよりも、好むと好まざると係わらず、必ずその話は出ます。絶対出ます。
滝教育長	今、堀先生がおっしゃった、現状、城東中学校、令和3年17学級あります。2~3年後の状況を見るのならば、17、16、15という学級数です。ところが令和15年を見ていただくと、8学級です。ほぼ学級数が半分になってしまいます。ですから、通常の15学級分の校舎を建てても、実際には8学級になってしまうと。だったら、そのあたりも考えて校舎を建築していかないと難しいよね、ということです。
堀委員	全体的には減っていくものだから、今の城東だけの話ではなく、遠い将来、学校がくつつくとか、減るということもあるわけですね。
滝教育長	小学校も、中学校も減っていきます。
山田市長	場合によってはそういうこともあるかもしれませんが、統合という話。ですが、先々が多いか少ないかはあるにしても、今、子どもたちが通っている親の世代からしてみれば、「今」なんです。ですので、「学区をどうするんだ」ということはおそらく出てくると思います。整備が始まったり、設計や基本構想を作り始めてから、それを議論しようと思っても、それは前提を変えようがない場合もあるものですから、なかなか難しい話ではあるのですけれど、みなさんと協議していかないといけない時期にあるのかなと思います。

滝教育長	学校を見直すということですがけれども、これは変えるということではないです。見直した結果、現状維持ということもありえると思います。ですので、学校の区割りを変えることが大前提ではなくて、これから何年か先の児童数・生徒数を見ながら、正常な児童・生徒数の数を維持していくためにはどうしたらいいかという視点で見直していくことが必要なのかなと思っています。
奥村委員	城東中学校の建替という部分で、小学校と併設校、城東中学校を建て替えるときに城東小学校も一緒にやって併設校にするのか、一貫校にするのかということも考えられると思うのですが、そういったときの予算も踏まえて検討をしていくということでしょうか。
山田市長	予算は、華美に必要以上の金をかけない一般的な学校整備の予算であれば、金のことはこちらが考えることですので、どういう学校を作っていくかということは、皆さんを含めて議論されるべき課題ではないかなと思います。
奥村委員	多分、現状で考えると、併設校でないと、一貫校にしてしまうと、小学校から中学校に上がるという感覚がなくなります。一貫校は小学校と中学校の垣根がなくなりそのまま1年生から9年生という形になるのですが、そうすると今井やほかの学校の学区の問題が出てくるので、そういうところが一貫校にするのか、併設校にするのかというところの分かれ目になるかなと感じます。そういうところからも、学区というものを考えていかないといけないなと感じました。
山田市長	はい。それは前に議論しましたよね。確か教育委員会で見てきてもらいましたよね。
奥村委員	一度学校訪問で日進市に見に行きました。
山田市長	そういう問題も引き続き研究していただければと思いますので。
奥村委員	例えば、学区についてということも考えると、学校選択制というようなことも、考えていったいいのかなと思います。これを見ると、どう考えても今井小学校と栗栖小学校は1学年が1名とかいうクラスが出きます。今でも複式学級。私の考えなのですが、教育について考えると複式学級よりも一学年一学級には最低してあげたいと思うと、住民を増やすというとなかなか現状では10年以内ということは難しいと正直思います。ですので、選択制にして「ここの学校に行きたい」という子を入れる。それを選択させる、城東が新しくできて、そこに行くということも。ただ、学校の大まかな何年にどの中学校に何人増えるということは非常に難しくなるかなとは正直思います。犬山市全体というふうにいけば、犬山市全体の何人というものは変わりなしなくて、犬山市の中で児童が動くというふうな考えで大きく見なければいけないと思うのですが。
山田市長	通学の問題がクリアできれば、選択制の検討ということも今後の学校のあり方を考える上で、初めから排除する必要はないと思います。議論した結果、選択制はうちでは導入できないという結論があればいいのですが、はじめから検討のテーブルに乗せないということはないと思いますので、教育委員会の中でまさにそういう議論をされると良いのではないかなと思います。
滝教育長	かつて全国的に統廃合が進んで、学校選択制が取り入れられたらどうかというようなところがあった時代に、犬山も議論したことがありまして、犬山市内の小中学校はどこの学校も同じような教育を受けられるということで、あえて学校選択にする必要はないということで、ここまでは来ていますけれど、今、この時点になって、「やっぱり選択制をやった方が良いのではないか」ということであれば、一度教育委員会の中で議論して、「こんな状況です。犬山は学校選択制を導入します」と。ただし、導入するのは良いのですが、ある学校が極端に増えて、ある学校は極端に

	<p>少なくなってしまうと、現有の校舎では対応しきれない状況も出てきてしまうので、無責任に学校選択性ということは難しいかなと思います。もしやるとしたら、例えば北小学校の道路東の子たちに関しては「犬中に行っても良いよ」、「城中言っても良いよ」というくらいの選択はいいのですが、「北小学校の子はどこへ行っても良いよ」といって全部、南中、東中に行ってしまうと問題が出てくるので、この件に関しては教育委員のなかで少し議論してからの方が良いかなと思います。</p>
木澤委員	<p>私は西小学校ができたときに、子どもがちょうどその年齢でした。その時に、すごく教育に関心がある人と、子どもが学校に行って、勉強が出来て、元気に育ってくれば良いという親がいることも確かだと思います。そうすると、選んでいくということになると、熱心な人達はそのように動くかもしれませんが、子どもが学校に行って、元気にして、大学に行く頃には自分の意志で動けるようになって欲しいというような人にとってはそういうことが楽に動くのではないかなと。「みんなが犬山市の中で平等に教育をしている」、「どこに行ってもいいじゃない」という親がないことはないのではないかなと感じます。そうすると、こちらで分けたりするのではなくて、聞いたからといってどうにもならないかもしれないけれど、まず最初に親の意見を聞くということがものすごく大事です。西小のときも降って湧いた話という記憶です。役員をやっていたので、その現場は、まずは住民の人たちに「10年のスパンでこういうことをやっていく」とお伝えして、聞くことは本当に大変かもしれませんが、その時間を長くとらないといけないように感じています。</p>
山田市長	<p>おっしゃる通りだと思います。給食費の値上げをしたときも、かなり細かい資料を早い段階で提示して、十分助走期間をとった上で、結論までもっていていますので、そういうプロセスを早い段階から踏むということで、非常にスムーズな流れになったのかなと思っています。もちろん100%全員の意見を、みんな思うとおりにするというは無理な話ですから、それよりも十分な助走期間があるところで住民と情報共有をしながら結論を導き出していくというプロセスが、非常に重要ではないかなと思っています。その辺のところを是非教育委員の皆さんには頭においていただきながら、城東の学校整備に向けたロードマップの中で時間軸を意識していただけたらと思います。</p>
小倉委員	<p>先日知り合った人が、岐南町の人なのですが、岐南町は給食費を無料にしたら2,500人移動してきて、「子どもがどんどん増えている」という話をされていました。学校の方針一つで、まちが変わるということを感じます。私が住んでいるところは、北小の城東地区ですけれど、二十歳を超えた子たちが学校に行っていた時、北小から城東に入るのが10人ぐらい、それでクラスが6クラスに分かれて、全員が均等割りされるから、「転校した気分になる」と。大きな人数、もともとあった仲間のところに一人で入る、二人で入ることがつらくて、という話を先輩の親たちがしていました。ですが、今は数がいっぱい行っているのも事実ですし、城東中学校に行くのは、新しいおうちの人たちが多くて、犬中に固執をしていない人たちが多いのではないのかなと。犬中、北小エリアの人たちは、自分が行った学校に自分の子どもたちを入れたいという母校に強い思いを持った人たちが非常に多いように感じます。そういう意味で、今住んでいる人たち、これから先子どもたちが学校に行く若い親、まだ子どもがいない人たちがどんなふうに思っているのか。ずっと住んでいるけれどそこに子どもたちがいる人たちの意見も全部聞いてみたいかなと思います。感覚としては、そんなに犬中にとか城中にとかこだわっていないように感じます。目先のところで</p>

	<p>言ったら、「制服が変わるから、お姉さんやお兄さんのものが使えない」という意見が出てくると思いますが、整備をしてブレザーになりました。ですからネクタイだけで同じものを着られるということも、良かったのかなと結果論として思いました。今は、城東小学校と城東中学校の話だけれど、これからどんどん子どもたちが減っていくことを考えたら、城東と同じようなことがよその小学校や中学校でも起きていくこともあると思います。そのことを踏まえて、城東が良いモデル、犬山モデルみたいなものとして、もっといっぱい考えていけないことがあるかなと思います。学区を整えて、もし一貫校を作ることができたら、新しい教育方法を考えられるなと思いますし、それでゆとりができて教育ができる。そんな試みをしてみて、犬山らしい教育が、新しいものが生まれてくる可能性もあるような気がします。もし整備ができなかった時には、併設校として新しい歩みを考えていけないといけない。どちらか選択をする、建物を建てる前にそれを決めないといけないと言ったら、本当にこの1～2年のうちに自分たちがどういう学校づくりをして、どういう教育をして、どういうまちづくりをする、というところまで決めないといけないという、少し焦ってきました。ですが、方針によって、もし「犬山でこういう教育をするんだ」という熱いものを出していけたら本当にまちが変わって人が増えるかもしれないし、増設しないといけないかもしれない。そういう夢を持ちながら本当に早く考えないといけないなと感じました。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、特に北小の保護者について、本質の部分をおっしゃったと思うのですが、非常に北小、犬中にこだわる人と、フレキシブルな人とかなり温度差があると思うので、こだわりの強い人にとってみれば、学区は一つ、犬中に行くということが一つの流れと捉えている人もいるので、そこは実際に声を聞きながらどうやっていくかということは見極めだと思います。それから、学校を作っていくということは、おっしゃったように地域の拠点でもあるので、まちづくりとも直結してきます。今まで、羽黒、楽田、南小と来て、基本的には既存の学校を作っていくということなのですが、やはり建物を作るということは、単に校舎を作るというだけではなくて、地域づくりを加味した時にどういう空間にしていくのが良いのかということも考えられる訳です。小倉委員が言ったような視点で、これからそういったものを、全部建て替える訳ではないので、真っ白なキャンパスとは言いませんが、一つの新しい価値を作っていくことができるチャンスだと捉えていただいて、「大変なことだ」とか、「いろんな人からいろんなことを言われるぞ」ということよりも、「新しいものを作り上げていく」その喜びを感じていただきながら、学校づくりについて、皆さんに意見をしていただけたら嬉しいです。</p> <p>それから、冒頭でおっしゃった岐南の話ですが、その話は全国的にもある話で、何年前かに市長会の研修で行った兵庫県明石市では、その時に第2子の保育料を無料にしました。そしたら一気に人口が増えた。明石に急に子どもが生まれはじめたのではなくて、周辺の自治体から一気に流入してきている。不動産が足りなくなるくらい。自然増で中核市になってしまった。そうすると、春日井市でもそうですが、企業から事業所税という特別な課税があります。要するに、人口が増えることでそのようになってしまったところもあります。犬山もそうするのかなという話ですが、ここでも話したのかな、多子多胎の支援強化ということで、3人以上の子どもに関しては、子どもが妊娠してから、幼保小中と成長していく過程で、連続的に集中的に多子世帯を支援していこうということで、第3子以降については、来年度から保育料も給食費も小中の給食費も無料にしていく。それだけやるのに8,000万</p>

	<p>円かかります。もし、財政的に余力があれば、これは難しいかもしれないけれど、できれば第2子以降からやりたいという腹づもりは、実は持っています。ただし、この政策は給食費だけをタダにする、保育料だけをタダにする、全国でやっているのはそこだけです。明石は保育料。岐南町は給食費。一貫してやっているのか、ということなんです。生まれてから一貫して、ずっと継続的な支援をするというパッケージで捉えているところは犬山だけなんです。犬山が全国でも数少ないメッセージを発信します。大体保育料から、給食費から第3子を無料化するとその子の状況にもよりますが、一人当たり170万ぐらいの負担軽減になります。「犬山で子どもを育てると育てやすいね」といって産んでもらうのが一番良いのですけれど、産むことは強要できません。結婚すること自体、皆さんのライフスタイルですから、「もう一人」という意識につながるようなものになるといいな、というような施策も打つ予定にしています。も打っているのですが、無料化は来年度からなので。まあ、そういうこともやっています。ありがとうございます。</p> <p>他によろしいですか。はい、渡邊委員</p>
渡邊委員	<p>素朴な疑問というか、例えば市長が南小だったのが城中に通ったとか、北小から城中とか、嫌がるのは単純に少数になるからなのかどうなのか。私が単純に思ったことが、距離の問題ということはすごくあるのかなと思っています。この間、城小の学校訪問に行ったときにもものすごく広い通学エリア、4キロ、5キロを子どもたちが歩くことが、親にとって学区を変えるときの一個の考えになると思ったり、去年もコロナの時に今井小が学校の帰る途中で給水タイムというものをニュースで読みましたが、学区のあり方、例えば栗栖とか、今井といった少数のところから通ることがものすごく負担になっているから、そこに人が移り住んでこない。そうすると、通学の手段としてコミュニティバスのようなものがあると、逆に今井とかに人が集まってきたり。交通手段とか、通学の安心安全、というものも学区と同じように考えられると良いのかなと。素朴な疑問と思っていることを言ってみました。</p>
山田市長	<p>小学校から中学校へ行くときに、距離の問題もあるかもしれないですけど、子どもの心理からすると、自分の時は、距離というよりも、やっぱり「友達と別れるのが嫌だ」、「小学校まで仲良くしている友達と離れるのは嫌だな」という心理は自分の時はありました。でも、新しい友達ができるということは、ひとつの魅力ではあったと思うし、結果的にはそれが良かったと思います。それぞれいろいろ心理状態、家庭によってもいろいろあるでしょう。</p> <p>通学に関しては、犬山の場合、面積が広い。山間部に小規模な地域があるので、どうしても今井とか栗栖だけに限らず、距離がある。学校までの距離がある地域というものが市内にあります。そうすると、通学の手段を考えたときには、個別の地域だけではなくて、犬山市全体の対応をどうしても考えざるを得ません。コミュニティバスに関しても、ちゃんと子どもが登校下校に使える時間帯にたまたまバスがあれば良いのですが、そのためにバスを用意するということになると、完全にスクールバスとして、コミュニティバスとは全く別の手段で用意しないといけないことになる。それができないと言っているわけではないのですが、それを犬山市全域でどういうあり方にしていくかということを考えないといけないと思います。どれだけの距離のところはこういう対応をすとか。そうでないと、一部の地域だけということになると、「自分のところはどうするんだ」という話が出てくると思います。今後の学校の在り方を考えていく中で、そういう議論は合わせてやっていかれるのは良いと思います。</p> <p>はい、他によろしいですかね。</p>

	<p>では、特にご意見もないようですので、冒頭に申し上げたように、どうしても学校を整備していくということは、概ね時期が決まっていますから、その学校の整備に合わせて、今、申し上げたこの学校のあり方、学区のあり方、そういうことを時間軸を持って皆さんで議論いただきたいと思いますので、その点よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>この点については、一旦ここで区切らせていただきます。個別の学校の問題なのですが、アドバイザーのお二方、もし何かあれば。</p>
森犬山南高等学校長	<p>市長の話を聞いていて、「そうなんだ」と思ったのが、今井とか栗栖のような小さな学校を最初から再編の対象にするという考えではないと表明されました。確かに今井は令和3年度が19で、令和9年度が18。全然数が減っていない。栗栖だって、11が10で、「生徒数が減少していないのに、なぜ学校を減らすのか」ということに対して、どのように行政として返答をしていくかというのは非常に難しいと思います。何よりもびっくりしたことは、「小さい規模は小さい規模なりのメリットがあるはずだ」と。「そこをきちんと醸し出していく」ということについては、なるほどと思いました。大きければ良いというわけではないので、小さいなら小さいなりにそこでしかできない教育のあり方を、そこにコミットして教育行政や現場の教員がきちんと考えていくことができるかどうか、ということとは本当にその通りだと思います。単純に新しい学校を作れば良いという問題ではありません。県立学校も、今、再編計画を考えていかないといけない状態です。特に普通科のあり方が普通過ぎて分からないということは国も言っていますので、今までにはない普通科を作れということで、いわゆる「『スクールポリシー』というものを明確にしろ」と言っています。どんな子を受け入れて、どういう教育をして、どんな生徒にして卒業させていくのか。大きなベクトルを示して世間に問いなさいと。こういうことを4月1日付でやるようにと。ということですので、犬山高校もそうだと思いますが、南高校もどうしようかと。おそらく全国の高等学校で頭を痛めていると思います。ある意味、選択制にしても、「スクールポリシー」を明確にして、「うちはこういう子を育てます。だからそれに賛同してくれる皆さんうちへ来てください」。逆に言うと、「それに賛同してもらえない場合は、来てもらわなくて結構です」というふうに、真正面から訴えて勝負していく時代が学校にも来たということだと思います。その中で、他校との差別化であったり、特色化をどう図っていくのかということだと思います。お金の話がありましたが、「それは行政が考えることなので良い。」とおっしゃいました。先ほどの小さい規模の学校でも同じだと思います。</p> <p>私が偉そうに言うべきことではないと思いますが、「これからの時代の犬山をどうしていくのか、ということを経済という切り口から議論してよい」という意味合いの市長からの発言だったと私は受け止めています。前例のない分、ある意味自由に考えてよいと。妄想だと言われようが、妄想だって出発点は現実の中にしかないものですから、いろんな妄想を皆さんで出していただいて、そこから落ち着くところに落ち着いていくのだらうなというふうに思います。</p> <p>皆さんのご発言を聞いていて、県立学校に、今そのまま持って帰って職員会議に出してみようかなと実は思って聞いていました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>はい、では犬山高校 石田先生。</p>
石田犬山高等学校長	<p>私は北小出身の犬中出身ですので、いろんな学校の名前が出てきて、懐かしく思っています。今日のこの会議に参加する前に、「犬山市の小学区」という犬山市</p>

	<p>の地図で校区割りしたものを印刷してきたのですが、確かに城東小学校は学区が広いなど、改めて思いました。そういったところで、新しく建替をしてどういった形でやるのかということは、周りに住んでいる地域の方の声というものが大事になってくるのかなと思います。</p> <p>今、私は隣の各務原市に住んでいまして、私の住んでいるまちの自治会は、二つの小学校、中学校を自由に選べるようになっていました。私の子どもも、周りの子どもたちが片方の学校に行くので、自分もこっちの学校に行くというふうになっていました。やはりこれだけ大きな規模になりますと、各自治会の人を交えながら、あるいは青少年健全育成協議会とかそういった人の、いろんな知恵をいただくことも一つの手かなと思いました。いい形で新しい学校がスタートできればいいなと思いつながら聞かせていただきました。</p> <p>また、先ほど森校長先生もおっしゃっていましたが、山田市長におかれましては、小規模の学校をととても大切にされているとことが、私にはとても心に響きました。小規模だからそこ大事なところがあるわけで、今でいうとGIGAスクールでタブレットが配布されましたし、うまく工夫していくことで、小規模校だからこそできる教育というものが絶対あるはずですので、地域の人の愛情を注がれた一人一人に手厚い指導をできる形、たとえ複式学級でもできるかと思えます。そういった特色を出しながら、小さな学校も大事にしながら、新しい学校で犬山市民の皆さんの意見を吸い上げながら、未来の犬山の教育の一つのシンボルになるような形で進んでいったらありがたいかなと思います。本当にととても大変なことだとは思いますがけれども、ぜひ皆さんのお知恵をもとに良い地元の中学校、小学校、これがひいては我々高等学校にも波及していきますので、ぜひよろしく願いいたします。</p>
山田市長	<p>ありがとうございました。貴重なご意見いただきありがとうございました。それでは次の議題に移ります。</p> <p>「不登校について」です。これは前回も皆さんと議論させていただいたので、不登校の現状というものは、皆さんもご認識いただいているとは思いますが。今日また不登校のことを引き続き協議することについて、皆さんからそういったご意見があったと聞いておりますので、このことについての協議をしていきたいと思えます。皆さんから、前回に引き続いて不登校の問題についてご意見等があればご発言いただきたいと思えます。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
滝教育長	<p>皆さん不登校についてはたくさん思われることがあるかと思いますが、まずは私が最初にお話ししたいと思えます。</p> <p>前回ここで議論した時に、私は学校現場にいた人間として、不登校の子は少しでも学校に来られるようにしたいと意見を申しました。そしたら、当時の犬山高校の祖父江校長先生も、やはり学校現場にいる人間として、想いは一緒だと。ただ、世の中の流れというものと、教育委員の皆さんと意見交換をしているうちに、「無理に学校に行かなくても、その子なりの居場所があって、学校で教育を受けるのと同様の教育を保証できるのであれば、あえて学校に来なくても良いのではないかと」という意見に、自分が引き込まれていくような状況になっていきました。その考え方は、決して間違いではないと思えます。むしろ、学校現場を苦しめる状況から少し開放させられるのかなど。要は、学校は子どもを来させなくてはいけないという責務を負わない。もちろんほかっておくというわけではありません。それに代わる教育を提供すればいいわけですから、例えば、教室の後ろにカメラを設置しておいて、それを家庭に配信するような状況ができれば、子どもは家において、あるいは学校以</p>

	<p>外のところでいて教室にいるのと同じような教育を受けられます。「それもありかなと思うようになってきた」という話をしたら、教育委員の皆さんはホッとされたような印象を受けました。あの時は考えが違っていただけで、あえて強く押しなかつたけれど、本当は心の中に思っていることがあるのではないかなと思いますので。ぜひ皆さんに聞いてみたいと思います。</p>
山田市長	堀委員。
堀委員	<p>それこそ、滝先生がおっしゃったみたいに、子どもたちに選択肢が増えれば良いのかなと。学校訪問で随分前に犬中に行きました。不登校の子がコロナ禍の時に、学校の方に気を向けてくれるようになったと、校長先生が話してくださって、例えば、いろんな教材を取りに来るときに、職員室に取りに来るのではなくて、例えば「校門のところでも良いよ」、「何とかでも良いよ」というふうにしたら、子どもたちが割と足を向けてくれるようになったと。それから不登校の子が少し減ったという話をしていたような気がします。このコロナ禍で学校の先生もいろんなことを考えて、子どもたちに寄り添ったという言い方は悪いかもしれないけれど、そういう方法を見出してくださったことはとても良いことだなと。コロナ禍なのでできたことかもしれないですけど、そんなふうに思いました。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。他に何かありますか。 奥村委員</p>
奥村委員	<p>私も以前から、不登校についていろいろと話をさせてもらって、不登校の子と学校とのつながりが学校へ来る第一歩だと思います。コロナになって、堀委員が言われたように、不登校の子を全部の子とオンラインで繋げた、それで不登校の子が来てくれるようになったというのが第一歩。そして滝先生が先ほどおっしゃったように、不登校の子に授業を配信するというお話をいただいてから、私の中では、ストンと安心したというか。不登校の子に対して授業を提供してあげられるということ、学校とつながることが非常に良いなど。これができれば「不登校」という定義がなくなるのではないかな。学校に来るというのではなく、家で勉強をする、学習をするということで、子どもの学習する権利も十分に補われるのではないかなと私は認識しています。一つだけ、私が要望したいというか、犬山市のタブレットは全員にいきわたって、今度は電波です。いわゆる通信手段というものが犬山市の全域に何か、名古屋は5Gが通っているけど犬山にはない。そういったようなところの、促進をしていただける、もしくは通信、ルーターなりWi-Fiなどのそういったものを提供する。そういったことが学習、学供への無料Wi-Fiの提供とかが増えていただけるとさらに過ごしやすくなるのではないかなと思いました。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。他によろしいですか。 はい、木澤委員。</p>
木澤委員	<p>不登校を考えたときに、市民としての経験ではないのですが、他市では不登校になる前の段階、またはその中には「いじめ」が多く含まれていることが多かったりと、家庭支援をやっていたのですが、家庭に入ってみると、これは学校に行けていないという家庭も多く存在します。不登校を語ることも大事けれども、その奥にある子どもたちの心、どういった形で良いかわかりませんが、今はスクールカウンセリングもあったり、これからは子どもの人権というかアドボカシーという形で動くということができつつありますが、これも試行錯誤であると思います。そうしたときに、不登校にまず取り組むことも大事ですが、その奥にある子どもの思いだったりとか、家庭の状況だつたりを聞くような場所なり、人が果たして犬山に配置されているかどうか。私も分からないのですが、そんなことが充実してくると、より</p>

	減ってくるのではないかなど。例えば学校に来られないのは勉強だけではなくて、もっと深い子ども同士のことだったり、親子関係だったりがあるのではないかと感じています。その辺ことをフォローしていくことが必要かなと思っています。
山田市長	はい。ありがとうございます。とりあえず一回り皆さんご意見を。他によろしいですか。はい、渡邊委員
渡邊委員	中日新聞で不登校について連載されているのですが、仕事柄というか、この間も城小かどこかに行ったときに、「ゆうゆう」に通われているのは中学生が多いと伺って、不登校の子たちを治すこと、減らすこともそうなのですが、どうしても年齢が来た時に「受験」があるので、そこに不利にならないような何か対応ができないのかなど。別の新聞で、経産省の未来教室の実証事業の一つで、ログインをしたら出席扱いにするということでした。受験にあたってネックになるのが、私立の高校は欠席日数が10日を超えてしまうと、受けさせてもらえないとか。例えば通知表に国英数で「1」がついてしまうと、その時点で推薦もとれない。不登校になった子たちへの進路としての明るさとか、ネガティブに彼らが捉えるのではなくて「不登校でもきちっとした進路があるよ」というのが、「本当にみんなと同じような進路があるよ」ということを明確に示してあげることが大事だし、それに基づいた、先ほど一人一台タブレットという話もあったように、使い方を考えていくと逆にネガティブな不登校は減るのではないかなど。議題を伺って、いろいろ新聞とかを見ていて、あとは受験が終わったので、そういう不利なことがないようにしたいなというところは感じているところです。
山田市長	ありがとうございます。他によろしいですか。
滝教育長	今のところで良いですか。小学生は一人います。今の不登校の関係ですが、小学校から中学校へ上がる、あるいは中学校から高等学校へ上がるときに、保護者達も、子どもたちも欠席日数のことを非常に気にします。ですので、学校、校長が認める、例えば家で、一人一台端末で授業を受けているのと同じような場を持てば、先生と家庭とのやり取りで、出席としてもいいのではないかと。それから、図書館にもWi-Fiが整備されていくようになれば、学校には行けないけれど、図書館に端末を持って行って、学校での授業の様子を同時に見て学習できれば、出席にして良いよねというふうに学校とは協議をしているところです。
山田市長	他によろしいですか。はい、小倉委員
小倉委員	先日、岐阜市にできた不登校の子のための中学校をテレビで見ました。学校を作るときに、こういう学校にしようとしてルールを作ったけれど、実際に子どもが来てみたら、子どもからこういう意見をいただいた、だからルールを改定、どんどん上書きして、今いる子たちが学校に来やすい環境、公立だけれど関係なく子ども達がここに来たいという学校づくりをしようと言って、最初は「学校のどこの部屋にいても良いよ」と。ただし、ボードでどこにいるのか、「自習室にいます」、「休憩室にいます」とか自分の居場所を教えてくださいとボードを置いて、それを見て先生が子どもものところに行って、「何してるの?」、「困ったことはない?」と子どもに寄り添うのだけれど、反対に子どもから「今、声をかけてほしくなかった」、「一人で考え事をしたかった」という意見を聞いて、「わかった、それは自分が悪かった」といって、今度は新しいルールで「今、声をかけてほしくないマーク」を付け加えて、「今ここにいます。今は声をかけないで」という子どもの意思をボードで拾って、子どもに声をかけていいタイミングを考えていると。そのルールを変えました。「こういうふうにしましょうというルールを見つけている途中です」というテレビでしたが、まさしく、そうではないかなど。どんな学校、何が求められてい

	<p>るか、子どもが求めているか、はそれぞれ違っていて、自分の価値を認めてほしい人もいれば、勉強したい子もいる、人のいるところに行きたくない子とか、いろんなカテゴリーがあるので、選択肢がたくさん持てたらいいのにと。それは小規模校を希望する子がいれば、人数の多い小学校から小規模校への移動を認めていくことも、城東の学校づくりのところで一緒に考えていけたら良いなと考えました。自分の子どもが「もう学校に行きたくない」、「二度と行かない」と言ったときに、いろいろ考えて、最初は「そんなことして欲しくない」。親としては、「不登校になって欲しくない」、「学校に行つて欲しい」と考えましたが、子どもの主張が大きくなってきたときに、「もう学校に行かなくていいよ」とそういうところまで来た時に、次に考えたことは「小規模校に入れてもらえないだろうか」ということです。小規模校に行ったら絶対楽しい時間が送れるということではないと思いますが、「環境を変えたら学校へ行けるのかな」とか、そんなことも考えました。「この子がいかせるところに行かせてあげたい」というのが親の気持ちで、それがどこなのかもわからないけれど、そういう選択ができる場所があったらいいなと思いました。今まで接してきた不登校の子どもで一番長かったのは、幼稚園の時の保育士の接し方、上からガミガミ怒鳴るのが嫌で不登校になって、小学校全部行かなくて、中学校でリセットして中学校からいけるようになったという子もいたり、友達で不登校になりかけたときにYouTubeで、「僕は不登校でした。その何が悪い？」というYouTubeだったらいいのですが、それを見て学校に戻れた子がいたり。本当にどんなスイッチで自分の次の人生というか、次の道が見つかるか分からない。そんな、接していく周りのものとして、「いろんなチャンスを与えられる、そんな人がたくさんいたらいいな」、「自分もその一人になればいいな」と、思いました。子どもにとって何が良いのかと言ったら、先生として、学校として、あったらいいなと考えるのは、今の目先のことだけではなくて、20年後、30年後の自分が思い描けるような教育というか、自分が20年後、30年後にはこんな仕事をして、こんなふうに住生活していたい、そのためには何をしたらいいというような、将来の計算ができるような働きかけができる教育であつたらいいなと。中学校に行くためとか、高校に行くため、大学に行くために勉強するのではなくて、自分が何のために勉強をしているのか長いスパンで考えられるような教育であつたらいいなあと最近考えています。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。後は良かったですか。 はい、田中委員。</p>
田中委員	<p>前回は議題になって、同じような話をさせていただいているのですが、この参考資料は最新資料になっていますが、結局、このデータからは何も言えないと言え、言えない。他の委員の発言とも関連すると思いますが、この数字の中でどれくらい対応ができていくのかという分析を議題にして、行政として何かしら取り組むべきものがあるのであれば対応が、例えば小学校で言うと0.95%、中学校で言えば4.57%の中でどれくらいが行政として対応が必要なケースなのか。「学校の先生が対応しているから大丈夫です」とか、来ていないけれどもきちんと教育を受ける権利が保証されていると言える状態なのか、ということを教育委員会として知るべきだとして、どういうふうに対応していくかという分析、例えば通年で教育委員会として、今年度は不登校のプロジェクトを立ち上げるとか、単年度では無理であれば2～3年のプロジェクトとして、本市はこの数値は少なくとも高いわけですから、犬山市でまず取り組まないといけない課題であるというスタンスでいくのであればやるべきだと思います。例えばアメリカでも、だれも置き去りにしない。行政と</p>

	<p>して、数値は高いけれど、全員追えているというようなことをするためには、マクロの数字だけではなくて、それぞれどういう場合があるのか。ここ10年ぐらい不登校の子は多様化していて、感覚としてカジュアルに不登校をする子が増えているような気がします。修学旅行だけ行くとか、楽しい行事だけ参加するとか。精神的にはそれほど追い込まれていなさそうで、だけど学校には普段は来ないとか。相当難しい対応がそれぞれの現場であるのだろうなと思いつつ、プラス貧困の問題も関わりますけれども、不登校の問題で一番注意しないといけないことは、関係的貧困という言葉があって、人間関係がきちんと結ばれているかどうか。学校の先生やクラスメートだけではなくて、不登校であっても安心した人間関係があればよしとするのかどうかも分析が必要かもしれませんけれど、Aさんの場合であれば学校の担当が対応していくのが一番の方策だと。Bさんであれば、そうではなくて家庭の状況を鑑みてスクールソーシャルワーカーに入ってもらった方がよいとか、Cさんであれば「ゆうゆう」で、というようなことが、行政としても把握できていると良いのかなと思います。おそらく福祉的な対応、GIGAスクール構想で勉強はできていても、関係的貧困でいうと福祉的対応が相当大事になってくるので、そうすると学校の先生だけではやはり追いつかないので、その場合、行政の他の機関とも連携をとっていかないといけない。そうするとプロジェクト的に、横断的に何かやるべきなのか。あるいは、近年の動向も学校訪問に行ったときに保健室の先生に聞ければ聞くのですが、子どもたちの最近の状況はどうか。90年代であれば保健室登校というものが流行って、教室には入れないけれど、保健室まで来ることができて、そして帰って行くという子が段々と増えていった。最近はどうなのか。相変わらず保健室登校の子は多いのか。あるいは減っていった、保健室ではなくて家でいる子の方が多いのかとか。学校の状況も情報収集したいと思いますし、そのようなプロジェクトというかも少し分析できるツールを教育委員会として増やしていけたらなど。逆にそうでないと、ここでしゃべっていても何も解決しないので、できることを少しでも探していければ良いなと思いました。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。他、よろしかったでしょうか。 滝教育長。</p>
滝教育長	<p>不登校も質と量の問題があって、質の部分は先ほど木澤委員がおっしゃったのですが、やはり個々に不登校になっている原因が、複雑に絡み合っていて違うものだから、これは本当に個々に対応を重ねていくのだと思います。一つ私が思うのは、量、つまり数を問題にすると、学校現場はどうしても数を減らそうとして学校に来させようとする。だから、我々も、マスコミもそうですけれど、不登校の数がどうということはどうもやめた方がよいのではないかなと個人的には思います。こういう統計もあまり出さない方がよいのではないかな。個々が違うものだから。個人的にそう思うだけで、そう思わない人もいるかもしれないけれど。あまり数のことを言ってしまうといけないかなということは思います。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。一通り皆さん発言されました。 これは前回も話をして、今回も議題にしたのですが、田中委員がおっしゃった話で、中身の分析は絶対必要です。それと、教育長の話は実はリンクしていて、これは不登校をカウントしているけれど、そもそも学校に来なくてはいけないとか、来なくていい選択もあるとか、そうするとカウントそのものがどうなのかと。それは中身の分析ができているかどうかと、絶対リンクしていないと駄目なんです。中身の問題を見ずして、カウントしなくて良いというのは、単に見ないようにしているだけであって、大事なものは、田中委員のおっしゃったこととリンクしているかどうか</p>

か。それは、前にも議会の一般質問で不登校の問題があった時、不登校の数の総量を答えようとしたので、私が「中の数字を出せ」と中の分析をさせました。例えば100人いるとしたら20人はこういう理由でこういう状態にある、15人はこういう状態で、とその内訳を答弁させたと思います。そこにはさらに細かい事情があるのですが、現場は一所懸命やってもらっていると思います。個々の事案に対してきめ細かくやっただいていてと思いますが、その中でさっきおっしゃったように、どういうふうに対応できているのか、どういう風に分析していくのか。さらに教育長のおっしゃったようなフレキシブルにこれから学校というものを考えていくとすれば、では来ない子はほかっておけばいいという問題ではないので、そこをどうやってフォローアップしていくのか、その手段をいろいろ考えていく必要があると思います。それから個別の事情にフォローアップをしていこうと思うと、それだけのきめ細かさを学校の先生に全部押し付けては限界があるので、そういうことへの人的な体制をどうしていくのか。あるいはそこに専門的な知見を持った人を入れていかないといけないのか。今もスクールソーシャルワーカーを入れていますが、一人では足りないということなのか、きめ細かさが現場の事情として求められると、それが教員の働き方にも関連してくるということであれば、人的な措置は、どこまででもできるとは言いませんが、できる限り私は現場に配慮した人的措置は講じたいと思っています。そういうことを教育委員の皆さんの中で議論して、ここにこういう人材が必要じゃないかと、私に言っただけならばと思います。

それから、学校に来るとか来ないとか、岐阜の学校の例もありますけど、あそこの学校のルールというのは非常にユニークで、教育長にも「あそこをよく研究してください」という話をしました。あと、不登校ユーチューバー「ゆたぼん」という人がいます。彼の姿勢というものは、私は全部を肯定する気はないのですが、彼がなぜ学校に行かないのかとか、どういう生き方をしようとしているのかとか。そういうことは、「変わり者が一人いるぞ」ということではなくて、ああいう背景の人、「俺流」というものがどうしても出てくる時代になってきたのだと思います。だから、そこにも何かこれからの時代を見る一つのヒントがあるのかなと思います。そこに学校の校則のあり方、校則というものは学校のあり方そのものを象徴するものでもあるので、教育長もおっしゃってくださったように、学校に行かないといけないという前提に立つのか、もう少しフレキシブルな立ち位置に立つのか、そこは実は校則というものをどう考えるのかということも僕はリンクしてくると思います。校則の問題は今、世間でいろいろ言われています。体操服の下に着て良いとかいけないとか、問題になりましたけれど、いっぱいあります。人権といったものに照らしたときに、今の社会情勢に合わないものもあるかもしれません。そこを学校の常識なのか、世間の常識なのか、時代の常識なのか、そこを整理していく時期に来ていると思っています。決して、学校はこうあるべきだとか、こうでないといけないという前提に立つことなく、全部ゼロベースで、本当にこれでいいのか。例えばツープロックがなぜいけないのか。そういうことを言い出すと、根拠が分からない。「制服だっていない」と。前に議論しました。なんでも好き勝手していいという話ではなくて、一回、先入観を取っ払って議論をしていく、ちょうどよい時期ではないかと思っています。そういうことをぜひ教育委員会の中でもお考えいただくと良いと思います。僕は考え方が古いのかもしれませんが、やりたくないことをやらされる、行きたくないところに行かされる、そういうところで得た経験の方が、私は生きています。なので、行きたくないところは行かせない、やりたくないことはやらせない、排除していけば排除していくだけ、大丈夫かなという不安もあるけれど、

	<p>これからの人達はそういう中でちゃんと育っていくのだろうと信じたいですけれども、私はさっき自由にか、ゼロベースでといった手前、意外と縛られてきたところに自分のまがりがあったなと思っているので、一定の負荷は人間必要ではないかなと思います。ただそれを、めちやくちやな根性論で我慢しろということも違うと思うので、程度の問題だと思います。</p> <p>少し余分な話もしましたが、そういう立ち位置にたつて教育委員会でも議論していただくと良いと思います。また私も何かあれば教育長へいろいろ投げかけていきたいと思ひますし、皆さんにも投げかけていきたいと思ひます。不登校については、中身をきちっと見ていく必要が絶対あると思ひるので、そこは定例教の中でも見ていただきたいと思ひますし、ここでもフォローアップしていければと思ひます。事務局、また今度、あまり登校ばかりでもいけないので、また頃合いを見計らつて、次はその中身、100人いたら100人の中身がどうなのかということ、定例教でやっているかもしれないけれど、そういうこともまた分析しましょう。</p> <p>よろしいですか。これについてはエンドレスな課題だと思ひるので、また情報共有していきたいと思ひますが、このテーマについてアドバイザーの先生、何かありますでしょうか。いかがでしょうか。</p>
石田犬山高等学校長	<p>よろしくお願ひします。貴重なご意見本当にありがとうございました。</p> <p>犬山高校には定時制・全日制があります。地元の中学校から多くの生徒に来ていただいています。当然その中には、中学校時代に不登校を経験した、かなり欠席日数が多い生徒もいますが、多くの生徒が頑張つて高校に通っているということ、ここで報告させていただきます。環境が変わつたり、人間関係が変わつたり、定時制のように少し人間関係が苦手な子でも、少ない人数の中で、そういった子が多い集団ではあるのですが、お互いにうまく距離感を持ってやることで、高校生活を送っている子がいます。それは中学校の先生方の指導の下で、引き続きやっておりますので、現状そういうことだということをご理解いただけたらと思ひるとともに、まだまだ学校に足が向かない生徒もおります。そういった生徒については、こちらから各中学校の先生のもとにお邪魔させていただいたり、お電話させていただいたりして、情報をいただいております。中学校におかれましては、一人ひとりの生徒のことを見ていただいている、中学校の時の様子、家庭の状況、こういう対応をしたらよかつたというようなアドバイスもいただいております。今後引き続きご協力いただければと思ひますし、本校においてもそういった生徒については、毎週、教育相談的な委員会を開いて、情報共有しながらどういった対応をしたらいいのかということ、養護教諭、特別支援のコーディネーター、スクールカウンセラー等を交えながら協議しています。そういったことで、一人でも多くの生徒が、10年、20年先に幸せな人生を送れるように、そういった意味では、どういった社会性を育んだりできるのかということ、工夫しながら対応しております。なかなか難しい問題ではありますが、多くの人に関わることで、いろんなヒントが出てきたり、良い解決策が出てくるものが多いものですから、引き続きやっていただきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひいたします。以上です。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p>
森犬山南高等学校長	<p>市長や田中委員も言われましたように、分析はいるだろうと思ひます。参考資料2、これは去年いただいた資料と同じだと思ひますが、この一枚だけを見ても、ここから何を議論すればいいのかが出てこない、そうすると「多い」、「少ない」に終始してしまう。そもそも愛知県平均の0.90と犬山市の0.95。0.05の差ですけど、これを多いと見るのか、たかだか0.05と見るのか。いろいろな見方ができ</p>

	<p>るものですから、あまり議論が進まないのでは、感情論になってくるのかなと思っています。ですので、出していただくときには、議論をすべき内容を整理して、事前にそれを見せていただくと、ありがたいなと思います。私自身もそれが勉強になると思います。</p> <p>それから岐阜の特例校の話が出ました。あれは確かに、「そこまで踏み込む時代なんだな」というふうに私自身も見ています。ただ、「特例」という名前からも分かるように、「特例」なんです。あれがノーマルではない。あの学校ができたからと言って、今までの教育的な考え方がガラッと変わってくるかという、変わってはこないと思いますし、前回もお話ししましたが、学校はこれから多様性を重視する場になります。多様性というものがLGBTQとかそういう文脈だけではなくて、いつも元気に爽やかに学校に来られるということは、生身の人間であれば、ないわけなので、それが今か過去かは分かりませんが、しばらく行けない時期があったという子も含めて、「うちで学びたいのであればウェルカムです。」という場になるだろうなど。それを前提にして、では学びの補償をどうするか、個別最適化をどう図っていくかということ議論すべきだと思います。そこにICTの力というものが一つ大きく力を発揮するのだろうというふうには思っていますし、それは財政力がいるとは思いますが、名古屋市だけがそれを進められているかというところでもなくて、例えば犬山市内のWi-Fi環境も含めてICTがもし遅れているのであれば、そこは他市に先駆けて予算を集中投下していくことで、犬山市が多様性を象徴する市になれるのではないかと。教育における優しい、いろんな意味で誰にも優しい、展開ができる一つの切り口になるのだろうと。なぜかという、先ほどの話に戻りますが、あれだけの学校の数だけでも、少人数学級があると言われましたし、まさか市長から「ゆたぼん」が出るとは思っていませんでした。確かに一般的にはたたかれています対象になっていると思いますが、たたく価値がないとたたかない。誰もがたたかれて痛いと思っていることを、彼が上手についてくるから、ムカッときてたたきたくなる。ということは、彼は時代のニーズに合っているんです。時代のニーズが5年後のニーズに合っているという保証はないものですから、それをきちんと見定めていかないといけないと思います。学校の常識が世間の常識と一致しているかどうか。世間の常識が世界の常識と一致しているかどうか。そもそも一致すべきかどうかということも私は考えていかないといけない点ではないかと思っています。ある意味、学校が非常識だと言われようが、「言っている世間がおかしいです」と。「それだけ自信を持って学校はやっています」と言えるような方向性を出していくべきだと思います。それは、「犬山市全体はこういう方向に向かっていきます」というくらいの自負があっても良いと思います。</p> <p>すみません、長くなりました。</p>
山田市長	<p>いえいえ、ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。はい、では不登校についてはこれで終わらせていただきたいと思っています。議題のほうはこれで終わらせていただいて、自由討議ですが、この際何かあれば、ご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>良いですか。特に無ければ。</p> <p>はい、特に無いようですので、自由討議については終わらせていただきます。その他何か事務局からありますか。</p>
事務局 小枝	<p>はい。事務局から1点、次回の会議についてです。次回、第2回の総合教育会議は、10月中旬から11月中旬ごろに開催する予定です。また定例教育委員会の前後の</p>

	時間を利用して日程調整等をしたと考えておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。
山田市長	はい、では「その他」はこれで終わらせていただきたいと思います。 それでは、次第にありますものが全て終わりましたので、これをもちまして、令和3年度第1回犬山市総合教育会議を閉会とさせていただきます。 皆様、本日は、誠にありがとうございました。
出席者	ありがとうございました。
< 閉 会 >	